

科目ナンバリング		U-LAS00 10018 LJ34							
授業科目名 <英訳>	科学論 I Philosophy and History of Science I			担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 青山 拓央				
群	人文・社会科学科目群		分野(分類)	哲学・思想(基礎)		使用言語	日本語		
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義(対面授業科目)		
開講年度・ 開講期	2026・前期		曜時限	月5		配当学年	全回生	対象学生	全学向
<b>【授業の概要・目的】</b>									
<p>本授業では、ある具体的なテーマに関し、科学が何を見いだしてきたか、そして、哲学では同テーマをどのように扱ってきたかを解説し、その比較を通じて科学の特性を理解していきます(担当教員の専門は哲学)。具体的なテーマとしてはとくに「自由意志」を取り上げ、それにまつわるさまざまな科学史・哲学史(とりわけホップズ以降の約350年ほどの近現代哲学史)を参照していきます。「人間の意志ではなく脳が行為をさせている」といった、近年耳にする機会の多い言説が、どれだけの正当性を持っているのか、さらに、そもそもこの言説は何を「意味して」いるのか、こうした問いを掘り下げることで、科学論の一つの在りかたを提示します。</p>									
<b>【到達目標】</b>									
<p>「自由意志」の科学と哲学をめぐる諸研究を知り、その論点を学ぶとともに、科学的研究の特性を、歴史をふまえて理解できるようになる。</p>									
<b>【授業計画と内容】</b>									
<p>下記の5つのテーマに沿って、「科学とは何か」「自由とは何か」を考えます(授業の進行具合に応じて、どのテーマに何週をあてるかを変更する場合があります)。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス：諸学問の特性について(第1週)</li> <li>2. 自由意志の科学と哲学#1(第2週～第5週) (リベットやメレなどの議論を紹介。)</li> <li>3. 因果関係と自然科学について(第6週～第9週)</li> <li>4. 自由意志の科学と哲学#2(第10週～第13週) (インワーゲンやケインなどの議論を紹介。)</li> <li>5. 総括と、担当教員自身の見解について(第14週)</li> </ol> <p>第15回：フィードバック</p>									
<b>【履修要件】</b>									
特になし									
<b>【成績評価の方法・観点】</b>									
<p>レポートにて成績を評価します。採点基準はやや厳しめで、講義内容を十分に理解しているかと、自分の考えを論理的に説明しているかを中心的に評価します。</p>									
<b>【教科書】</b>									
使用しない									
----- 科学論 I (2)へ続く -----									

科学論Ⅰ(2)

**[参考書等]**

(参考書)

青山拓央 『時間と自由意志:自由は存在するか』 (筑摩書房) ISBN:978-4480847454

**[授業外学修(予習・復習)等]**

授業前の予習はとくに必要ではありませんが、授業後の復習は十分に行なってください。

**[その他(オフィスアワー等)]**

教室収容人数に応じて、受講者を制限することがあります。授業での積極的な質問・発言を期待します。

**[主要授業科目(学部・学科名)]**

総合人間学部